

# 最近のラン科植物分類変更(日本)

夏井 高人

## 1 はじめに

近年における植物分類の変転は激しく、かなり大規模な分類変更が継続的になされている。

その要因の一つとして、遺伝子解析があることはいうまでもない。従来なされてきた形態分類だけではなく遺伝子構造の近似性の程度によって近縁関係を同定するという生物化学的な解析手法には(特定の種に属する植物の遺伝子解析それ自体が間違っている場合などを除き)ちょっと異論を述べにくい状況になっている。

もちろん、遺伝子構造上の近縁関係が確定されたとしても、特定の科や属などを細分化したり統合したりする作業は科学的というよりも便宜的な要素や政治的要素が含まれることがある。なぜなら科名や属名などの「名前」は、遺伝子構造とは無関係に、誰かによって命名される文字列に過ぎないからだ。特定の科や属に付される名前としての文字列は、自然現象の一部である遺伝子そのものとは全く無関係に、人間の精神作用によって人為的に生成される文化現象の一種と考えなければならない。なぜなら、人類が核戦争や巨大な地殻変動等によって滅び去り、(名前を道具として使用する人類が存在しない以上)名前というものが全く意味を失ってしまったとしても、生き残った植物達はその遺伝子を保存し、子孫に伝えていくからだ。

そのような前提で、植物学の一部としての命名は、学問の自由に含まれるから、本来は命名者がそれぞれ自由にやってもかまわないはずだが、それでは様々な社会的混乱が発生する。産業的には種苗法に基づく品種登録の有効性を確保しなければならないので、命名は国際的に通用する統一的なものでなければならない。種の保存の関係では CITES の証明書発行に用いられる名前も世界的に統一されたものである必要がある。外来生物の排除でも同じことが言える。特定の農産物等の輸出入に関する規制では、名前の統一がなければ適正な行政権・警察権の執行ができない(特に麻薬関係)。

そのため、学問の自由とは全く無関係に、また、各国の担当官庁(日本では農水省や環境省等)の意向に反してでも、国際的に承認された名前に準拠するしかないことになる。

もちろん、植物の名前に関する国際標準と国内での取扱いとに食い違いがあ

っても、その食い違いが全体の中では微々たるものであるのであれば、実質的な弊害はほとんどないだろうと思われる。しかし、かなり本質的なところで大規模に食い違いがあるとすれば、社会的にも法的にも深刻な問題が発生し得ることになる。そして、そのような場合には、結局のところ、国際標準に従うしかない場合が多々ある。

日本に自生するラン科植物にもそのような事例が多々ある。本稿では、園芸目的で栽培され親しまれてきたラン科植物を中心に、留意すべき分類変更の幾つかを紹介したいと思う。

## 2 ハクサンチドリ属 (*Orchis*) の分類変更

分類変更により、従前のハクサンチドリ属 (*Orchis*) は消滅した。日本の国土内に *Orchis* に属する植物は 1 種も存在しない。

### 2.1 ハクサンチドリとその近縁種

代表的なランであるハクサンチドリ及びその近縁種の分類が変更となった。その結果、現時点では、*Orchis* をハクサンチドリ属とするのではなく、*Dactylorhiza* をハクサンチドリ属に宛てる取扱いが一般的となっている。

#### ハクサンチドリ

(現行) *Dactylorhiza aristata*

(従前) *Orchis aristata*

#### シロバナハクサンチドリ

(現行) *Dactylorhiza aristata forma albiflora*

(従前) *Orchis aristata forma albiflora*

#### ウズラバハクサンチドリ

(現行) *Dactylorhiza aristataa forma punctata*

(従前) *Orchis aristata forma punctata*

(備考) *Dactylorhiza maculata* subsp. *fuchsii* が正しいと思われるが、検討を要する。



## 2.2 ウチョウランとその近縁種

ウチョウラン及びその近縁種の分類が変更となった。ウチョウランとその近縁種は、ウチョウラン属 (*Ponerorchis*) に属するものとする取扱いが一般的となっている。

### ウチョウラン

(現行) *Ponerorchis graminifolia*

(従前) *Orchis graminifolia*

(備考) アワチドリ, サツマチドリ, クロシオチドリは, ウチョウラン (*Ponerorchis graminifolia*) の品種 (地方型) とし, 独立の種, 亜種, 変種としては扱わない。

### シロバナウチョウラン

(現行) *Ponerorchis graminifolia forma albiflora*

(従前) *Orchis graminifolia forma albiflora*

### クロカミラン

(現行) *Ponerorchis kurokamiana*

(従前) *Orchis kurokamiana*

### ヒナチドリ

(現行) *Ponerorchis chidori*

(従前) *Orchis chidori*

(備考) 中国産の *Ponerorchis chusua* と同一種である可能性がある。

### シロバナチドリ

(現行) *Ponerorchis chidori forma albiflora*

(従前) *Orchis chidori forma albiflora*

チャボチドリ

(現行) *Ponerorchis curtipes* または *Ponerorchis chidori* var. *curtipes*

(従前) *Orchis chidori* var. *curtipes*

ニョホウチドリ

(現行) *Ponerorchis joo-iokiana*

(従前) *Orchis joo-iokiana*

## 2.3 カモメラン及びオノエラン

カモメラン及びオノエランの分類が変更となった。カモメラン及びオノエランは、カモメラン属 (*Galearis*) に属するものとする取扱いが一般的となっている。

カモメラン

(現行) *Galearis cyclochila*

(従前) *Orchis cyclochila*

オノエラン

(現行) *Galearis fauriei*

(従前) *Orchis fauriei*

## 3 オサラン属(*Eria*)の分類変更

分類変更により、オサラン属 (*Eria*) は、オオオサラン (*Eria corneri*) 1種を除き、全て別属に属することになった。

オサラン属の代表種であるオサランがオサラン属ではなくなった以上、和属名をオオオサラン属 (*Eria*) と変更する必要があるのではないかと思われるが、現状ではオサラン属という和属名が用いられている。

オサラン

(現行) *Conchidium japonicum*

(従前) *Eria japonica*

リュウキュウセッコク

(現行) *Pinalia ovata*

(従前) *Eria ovata*

#### 4 ミズトンボ属(*Habenaria*)の分類変更

サギソウの分類が変更となった。この結果、サギソウは、サギソウ属 (*Pecteilis*) に属するものとする取扱いが一般的となっている。

サギソウ

(現行) *Pecteilis radiata*

(従前) *Habenaria radiata*

#### 5 ヤチラン属(*Malaxis*)の分類変更

ホザキヒメランの分類が変更となった。この結果、ホザキヒメランは、ヤチラン属 (*Malaxis*) ではなく、ディエニア属 (*Dienia*) に属するものとする取扱いが一般的となっている。

ホザキヒメラン

(現行) *Dienia ophrydis*

(従前) *Malaxis latifolia*

#### 6 マツラン属(*Saccolabium*)の分類変更

マツラン属 (*Saccolabium*) の分類が変更となり、全てカシノキラン属 (*Gastrochilus*) に属するものとされることになった。

その結果、日本にはマツラン属に属するラン科植物が1種も存在しないことになった。

## マツゲカヤラン

(現行) *Gastrochilus ciliaris*

(従前) *Saccolabium ciliare*

## カシノキラン

(現行) *Gastrochilus japonicus*

(従前) *Saccolabium japonicum*

## マツラン

(現行) *Gastrochilus matsuran*

(従前) *Saccolabium matsuran*

## ホシナシベニカヤラン

(現行) *Gastrochilus matsuran forma epunctatus*

(従前) *Saccolabium matsuran forma epunctatus*

## モミラン

(現行) *Gastrochilus toramanus*

(従前) *Saccolabium toramanum*

## 7 その他

キヌラン属 (*Zeuxine*) 及びその近縁属について若干大きな変更があるが、分類に関する見解の相違が著しいので、割愛する。

以上